

研究主題

「『多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力』
の育成」

～自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める
授業づくりとともに、各教育活動と関連を図る道德教育の実践を通して～

越谷市立蒲生南小学校

1 研究主題の設定理由

全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査、越谷市学校生活アンケート調査の結果を見ると、自己肯定感、規律ある態度、粘り強さ、勤勉性、などの観点に課題があり、よりよく生きようとする道德性を養う道德教育を学力向上の下支えとしてバランスよく推進する必要があると考えた。特に、自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、自律的な人間の育成を目指すために、内容項目「A 主として自分自身に関わること」に焦点化した研究を進めながら本校の課題解決に取り組むこととして、上記の主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道德科と他の教育活動の道德的価値を有機的に関連付けた学習指導を実践すれば、主体的に判断してよりよく行動することができるであろう。
- (2) 道德科の目標・特質をおさえた学習指導過程を構想し、授業実践をすれば、より深く自己を見つめることができるであろう。

3 研究の経過

時期	内容
4月	・今年度の課題研修の共通理解 (本校の課題、目指す児童像の具体化、仮説などの確認、「授業の進め方」) ・各研究部の年間計画の作成
5月	・全学級授業公開 指導助言 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 芳賀一行先生
6月	・第1回道徳に関する実態調査、及び分析・考察
8月	・校内研修 埼玉県道德教育研究推進モデル校研究発表に向けた教材吟味 指導助言 越谷市教育委員会指導課教育指導担当 主任指導主事 風間俊樹先生
9月	・2学期の取組の共通理解
10月	・越谷市教育委員会・東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当 学校訪問(兼ねて第1回校内授業研究会)
11月	・埼玉県道德教育研究推進モデル校に係る学校訪問(授業公開及び指導助言) 埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当 指導主事 秋山香奈子先生 越谷市教育委員会指導課教育指導担当 主任指導主事 風間俊樹先生

令和5年度埼玉県道德教育研究推進モデル校 実績報告書

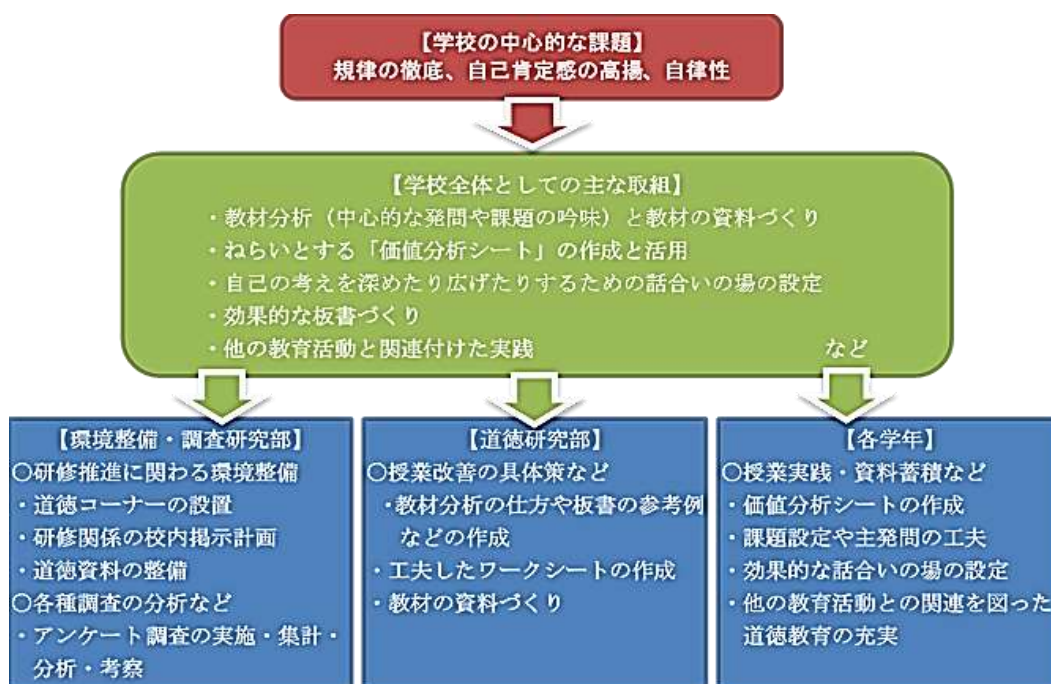
11月	<ul style="list-style-type: none"> 令和4・5年度 埼玉県教育委員会委嘱 「彩の国の道德」研究推進事業 埼玉県道德教育研究推進モデル校研究発表 指導助言 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 芳賀一行先生 講演「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育とその要である道德科の推進・充実」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 堀田竜次先生
1月	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の取組の共通理解 第2回道徳に関する実態調査、及び分析・考察
2月	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果と課題をふまえた来年度の計画作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の課題研修について共通理解

※上記以外に、毎月1回木曜日に学年研修を位置付けて、授業案の作成と検討

4 研究の内容

(1) 研究の組織

全教職員が参画できるように体制を整えている。また、各研究部が本校の課題解決に向けて機能するように、取り組むことを明確にしている。



(2) 道徳研究部の具体的な取組

① 道徳の授業改善に関わる取組

i 学校全体で共通指導ができるように、教師向け資料「授業の流れ」を作成

- ・授業づくりの拠り所

ii 指導内容項目の解釈を確かなものにするための 価値分析シートの作成と活用

- ・ねらいとする価値を事前に分析
- ・授業後に振り返りを行い、加筆修正の実施



令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

iii 毎月1回木曜日の学年研修にて授業案の検討

- ・事前に学年内の一人が授業の展開案をたたき台として作成
- ・学年研修の時間には、発問や板書の仕方について検討

iv 板書や授業メモのデータ保存・共有

- ・その後の授業改善の参考にするために、授業の板書や児童のノートをデータとして保存
- ・授業後、学年で授業の振り返りを行い、「効果的な主発問」や「児童の反応」等を簡潔に記録し、データとして保存



v 思考を深めるための道徳ノートやワークシートの工夫

- ・道徳ノートの書き方を提示し、学校全体で共通指導

vi 学習する子どもの視点に立った活動の工夫

- ・役割演技…特定の役割を与えて即興的に演技する。
 - 登場人物になりきるので、意見や考えが出しやすい。
 - 役割を交代することで、相手の立場も体験できる。
- ・動作化…動きや台詞の真似をして理解を深める。
- ・ハートメーター、心情円盤、心の物差し…「見える化」を通して子どもたちの対話を生み出す。

vii 教材の資料づくり

- ・思考を深める一助とする短冊や場面絵の作成
- ・以前の作成物を見直して更新し、次年度以降も使えるようにパッケージ化

viii 他教科等との関連を図った指導計画と実践

- ・道徳教育の充実を図って道徳性を養うため、「本校が目指す児童像」や「当該学年が目指す児童像」をもとに、ねらいの達成に関わる学習や他の教育活動を関連付けた指導計画を作成して実践

ix 埼玉県道徳教育教材資料集「彩の国の道徳」の活用

- ・年間指導計画に位置付け、年1回全学級において、「彩の国の道徳」を用いた授業を実施



② 家庭・地域との連携を目指す道徳教育の推進

i 道徳の授業公開

- ・道徳教育への理解や協力を得るために、学校→公開日等に道徳の授業を公開（全学級年1回）



ii 道徳だよりの発行

- ・内容項目に即した児童の活動を掲載し、保護者に向けて周知
- ・「家庭用『彩の国の道徳』」について掲載し、家庭に向けて話題提供・啓発
- ・感想やテーマ（例 我が家の子育て法等）についての意見を集約し、次号に掲載、相互の協力体制を構築

(3)環境整備・調査研究部の具体的な取組

①環境整備に関わる取組

学習のつながりや教育活動との関連付けを図るための取組と教室掲示の整備

- ・道徳の実態調査の結果をふまえ、本校の課題（規律ある態度）との関連を図った「生活目標の振り返り」

②調査研究に関わる取組

全校児童を対象にした、アンケート調査の実施・分析・考察

- ・児童の実態把握や実践の検証とともに、指導の工夫改善につなげるために、年2回実施



5 研究の成果と課題

(1)研究の成果

- ・「道徳科の授業が好き」という児童を育成できた。
- ・昨年度からの研究実践や日常的な実践を振り返り、授業改善の具体策を構築して取り組む教師集団になってきている。
- ・教材分析を含めた授業づくりに関する資料をデータで保存、整理することで、効率的に授業づくりができる環境が整ってきた。

内容	項目	小4	小5	小6
①はじめのある生活ができる	2 身の回りの整理整頓をする ③ 靴そろえ	81.0%	87.1%	91.1%
②礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする ⑥ 返事	83.5%	87.1%	88.9%
③約束や決まりを守る ことができる	5 学習のきまりを守る ⑨ 学習準備	83.5%	89.2%	88.9%

- ・上の表は、「規律ある態度」達成目標の調査結果である。その後、令和6年1月に実施した「道徳に関する実態調査」では、「生活のきまりを守って生活することができますか」の質問に対する全校児童の肯定的な意見が90.2%であり、「はじめのある生活ができること」に関して、学校全体で児童の成長が見られた。全教職員で研究に取り組んだ道徳教育の実践が、児童の生活に成果として表れている。

(2)研究の課題

- ・「規律ある態度」の定着については、県が目指す80%以上の達成率に届いていない項目もある。このことについては、学校全体としての課題と捉え、道徳科のみならず、「すべての授業での一人一人の学びを確かなものにするために必要不可欠である」という認識のもと、引き続き学校全体で共通指導が図れるようにしていく。
- ・各教育活動での道徳教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連が図られることで、道徳性が豊かに養われていくことを踏まえ、学校教育全体を通して道徳性を養う道徳教育のより一層の充実を図る。